

人力飛行機チーム

「自らの力で大空を

飛んでみたい」

株式会社 浅沼組大阪本店 建築部

吉川俊明 (チーム・リーダー)



人力飛行は古来から人々の夢でした。ところが、近年になって少し様子が変わってきました。結構と飛べるようになってきたのです。

英国の実業家ヘンリー・クレマー氏が、一九五九年、8の字飛行に懸賞を掛けた「クレマー賞」を制定、これを機に、各国で研究が盛り上がりました。わが国では七七年に、日本大学の「ストークB号」が二〇九三・九分を記録し、その直後に、アメリカの「ゴッサマーコンドル号」が同賞を獲得しました。八八年には同国の「ダイダロス号」が、ギリシャ神話の故事に倣いクレタ島を飛び立ちエーゲ海を横断、飛行距離

一一六・五八^{キログラム}分、三時間五四分の大記録を樹立しています。

アサヌマ・コーポレーション・ボードマンチーム「アクティビギャルズ」は、一九八九年「パイロットに素人女性を」をコンセプトに、読売テレビが主催する「鳥人間コンテスト」レディース部門の新記録を目標に達成されました。その年運良く総合優勝に輝き、以後連続出場しています。

昨年は、「日本女性初の人力飛行」をめざしました。素人の私たちが設計製作し、パイロットも素人女性。「大きな夢を、もつともっと身近なものに」と試みたのです。メンバーは、「アサヌマ」の一人のOLを

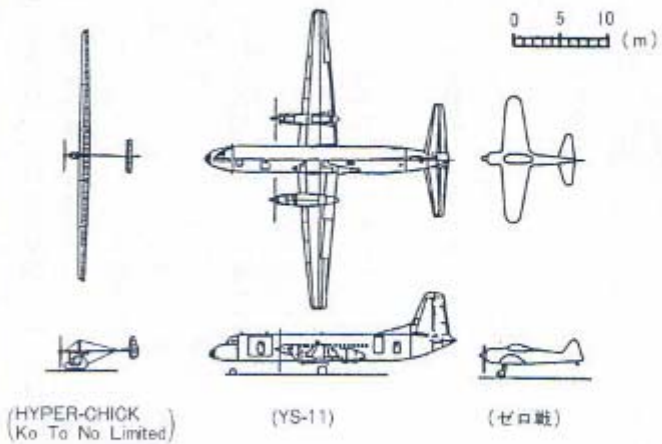
核に、男性職員四名と三名の鳥人間仲間の合計八名です。目標が大きだけに、「苦しい」の一言に尽きました。楽しみが目的ではないので当然のこととも思いますが、設計・製作は、パイロットが嫁入り前の女の子ということで、安全性と品質管理の徹底に心がけました。しかし、「鳥コンまで一〇カ月」と工程にも妥協の余地は有りません。文献や資料も乏しく、海外のレポート入手にわざわざ大阪から東京の国会図書館まで足を運ぶこともたびたびで、特に英文の翻訳には閉口しました。

パイロットの女性も、月曜日から金曜日は学習に二時間半、体力とレーニングに二時間、週末は操縦練習と機体製作にまる二日を費やします。一步誤れば命取りになるほどのハードトレーニングは、体育大学の教授の指導を受け、短時間・高負荷・高効率を目指し、七カ月間続きました。

テスト飛行ともなるともう大変。土曜の夜、トラックに機体を積み込み、翌朝四時河川敷に集合。土手を担いで運搬、組立て開始。五時半からフライトです。フライトというところとカッコよく聞こえますが、そう簡単には飛ばません。二六分もある翼を皆

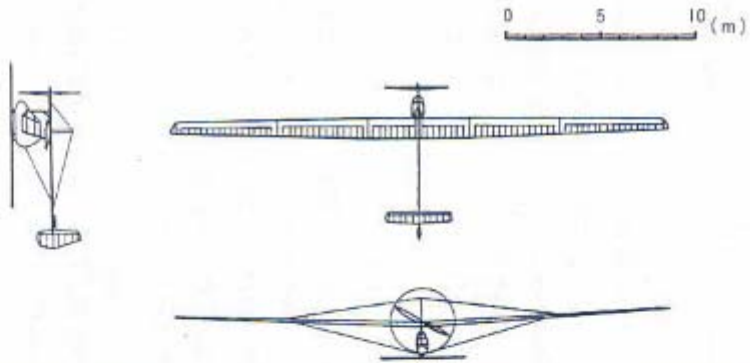
機体の大きさの比較

本機と国産の名機
YS-11、ゼロ戦を比較する。



HYPER-CHICK®Ko To No Limited®の三面図と主要諸元

全 幅(m)	25.86
全 長(m)	6.24
全 高(m)	3.28
翼 面 積(m ²)	23.53
プロペラ(m)	2,800φ×1
総重量(kg)	80.0
出力(hp)	0.25
巡航速度(km/h)	25.2(高度2m)
失速速度(km/h)	22.0
離陸距離(m)	20
定 員(名)	1



"Ko To No"
が飛んだ

F A Iルールは、高度2(m)
のクリアーを要求。
高さ2(m)のロープ越えの
瞬間。

パイロット
堀 琴乃(大阪本店購売部)

でじつと支え、向かい風一〜二秒の瞬間を待ちます。一〇〇秒のグランドいっぱいを使い、一フライングがわずかに数秒。三フライングでパイロットと飛行クルーは、体力と精神力を消耗し尽くしてしまいます。すぐにまた機体を分解、積み込み完了で午前八時。眠い目をこすりながらのテストが続きました。

記録飛行は、FAI（国際航空連盟）規定に基づき、公式立会人の立会いのもとに実施しました。七月五日早朝、富士川滑空場で、『飛行距離二一九・〇四五』、滞空時間二二秒二八』という日本航空協会公認の新記録を樹立しました。世界で二番目の女性記録達成です。二〇年に一人の逸材とすらいわれる名パイロットの誕生でした。「鳥人間コンテスト」で彼女の安定した飛行をご覧いただき、ご記憶の方も多いことでしょう。一つのエポック・メイキングとなりました。

チームを結成してから私たちの生活は随分変わりました。生活の多くは仕事に向けられますので、残ったわずかな時間で活動、いきおい余暇のすべてを注ぎ込むこととなります。ゴルフや釣りに代表されるス

ポーツやレジャーとは幾分異なる性格を持ちますが、『夢』を『現実の難問』に脱皮させるといふ喜びがあります。それには周囲の温かいまなざしや、それを育もうとする姿勢、幅広い知徳を持った周囲の環境も不可欠です。

メジャースポーツのチームでもなく、仕事ですべてというサラリーマンにとつては何もそこまでしなくともと思うでしょう。社会や家庭に対する秩序の維持の難しさを感じました。

甘えても、甘やかされてもいけません。幸い私たちは、家庭や職場を中心に人材や人脈に恵まれ、それを維持できたことが記録の成就につながったのだと思います。今、かつて味わっていた『感動』や『感激』は、ご協力いただいた方々への『感謝の気持ち』へと変わっています。

私たちは、これからも『夢』にチャレンジする姿勢を持ち続けたいと思います。このような活動の展開も、『ゆとりある生活』を中心とした、豊かな社会創りの一ページ』と考えます。『夢』を空高く飛翔させたいと願う熱意と意欲が活動を続けさせるのではないのでしょうか。

第16回鳥人間コンテスト選手権大会



ASANUMA CORPORATION BIRDMAN TEAM*ACTIVE GALS*のメンバー
飛行距離334.13(m)、4位入賞

今年「鳥人間コンテスト」滑空機部門の新記録を目標に、活動を始めました。皆さん、私たちと一緒に琵琶湖で『大きな夢』と磨きぬかれた技を競い合いませんか。では、真夏の暑い夜、お茶の間のテレビでお目にかかりましょう。